

令和4年10月28日

羽生市議会議長 様

会 派 名 拓政会
代表者氏名 会長 保泉 和正

行政視察報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1. 視察日程 令和4年10月23日(日)～25日(火)
2. 視察項目
 - ・10月24日(月)午前10～
南国市「地産地消の取り組みについて」
 - ・10月24日(月)午後2時30分～
須崎市「公共施設等運営事業による持続可能な下水道事業について」
 - ・10月25日(火)午前中
高知市「津波避難ビル・タワー視察」
3. 視察参加者 保泉和正、島村 勉、日本共産党柳沢暁

【視察感想等】

令和4年10月23日～25日、高知県南国市及び須崎市を視察いたしましたので報告いたします。

初日、高知県立牧野植物園(ムジナモ)を訪問いたしました。羽生市を代表するムジナモは、高知出身の牧野博士によって命名されたと知った次第です。

園の規模は広大であり、さまざまな植物が紹介されていますが、ムジナモの池は小さく、三田ヶ谷池の方がはるかに大きく、やはりムジナモは羽生かなと思います。

2日目は、南国市を訪問し「地産地消の取り組みについて」を視察いたしました。

担当課長の説明によると、当市は気象条件にも環境条件にも恵まれ多種の農産物が多く採れ、農業生産規模は他市に比較にならない恵まれた所であり、南国市も県の産業振興補助金に追加で補助している。生産された農産物は、地元で消費するを主体に1例を上げると、学校給食では、パンは月に1回以下で米飯給食に力を入れていて、教室に炊飯器を置いて温かいご飯を子供達に提供している。

又、JAが道の駅内にレストランを経営していて、市民が入り切れないほど利用しているとのこと。

3日目は、須崎市の「公共施設等運営事業による持続可能な下水道事業について」と「高知市津波避難ビルタワー」を視察いたしました。

須崎市では、公共下水道事業を民間企業と運営を委託したものであります。運営事業者(SPC)株式会社クリンパートナーズ須崎、社長 若林秀幸、構成企業は、(株)四国ポンプセンター、日立造船中国工事(株)、(株)四国銀行、(株)民間資金等活用事業推進機構で、総事業費、26億9800万円、令和2年～21年の19年間市負担額削減効果は、2億2300万円、担当者の説明によると、まだ開始まもないので順調に推移しているが、先のことは何とも言えない。リスクも予想されるがしっかり管理することによりメリットの方が大きいと考えるということであった。全国的にも例を見ない取り組みを実施しているところに感心した。

次に津波避難ビルタワーを見学した。ここは民間の自動車学校であり、数十年前に高知市に2m～3mの津波におそわれ、この自動車学校も壊滅した経験から自社の学校の屋上に300人～400人収容可能な避難場所を設けたのである。時の社長が、国会議員だった様である。そのお孫さんの社長に説明を受けた。

以上、拓政会での視察報告といたします。特に印象に残ったには、公共下水道の民間委託である。経過を見て再訪問の必要ありと感ずる。